






## 病害虫発生予察情報予報第 10 号

佐賀県農業技術防除センター

### I. 予報の概要

作物名	病害虫名	1月の予想発生量 <sup>注1)</sup>		病害虫防除のてびきの記載頁 <sup>注2)</sup>	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
イチゴ(本圃)	ハダニ類 <sup>注3)</sup>	やや多	やや少	205~206	 イチゴ ハダニ類
	うどんこ病	やや少	並	195~197	
	灰色かび病	並	並	198~199	
	アブラムシ類	並	並	210~211	
<b>特記事項</b> 1. ハダニ類 天敵(カブリダニ類)の放飼は、有効薬剤によりハダニ類の密度を0頭レベルに抑えた後に行う。 2. 薬剤散布におけるミツバチへの危害防止 ミツバチへの影響が小さい薬剤を選択するとともに、散布前に巣箱を圃場外に持ち出す。また、ミツバチが活動する時間帯の散布は控える。					
キュウリ	べと病	並	並	175~176	 キュウリ褐斑病
	うどんこ類	並	やや少	173~174	
	褐斑病	並	やや少	178~179	
	アザミウマ類	並	やや多	152~156 187~188	
	コナジラミ類	並	並	186~187	
<b>特記事項</b> 1. ウイルス病媒介虫(ミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミ) ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する(平成28年9月12日付け病害虫対策資料第11号参照)。なお、植え替え時にはキルパーを用いて古株を完全に枯死させ、媒介虫(成幼虫)の死滅処理を行うとともに、蛹の死滅を図るため、2週間程度の蒸し込み処理期間を設ける。					
トマト	疫病	並	並	216~217	 トマト灰色かび病
	葉かび病	やや少	並	222~223	
	灰色かび病	多	多	217~218	
	コナジラミ類	やや多	やや多	149~151 225~227	
<b>特記事項</b> 1. 疫病、灰色かび病 こまめな換気とともに、循環扇や加温機を活用し、施設内および葉面の結露を防ぐ。特に、夜間の気温が高いと予想されるときには、加温機の送風機能や循環扇を利用し夜間送風を行う。また、発病部位の早期除去、予防的な薬剤防除を組み合わせる。 2. 黄化葉巻病 タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルスを媒介するため、発生初期の防除を徹底するとともに、発病株は早急に抜き取り、適切に処分する。					
アガスパラ	<b>特記事項</b> 1. 来作に向けた褐斑病、斑点病、茎枯病、ハダニ類の対策 これらの病害虫は発病茎葉、刈株等で残存する。茎葉刈取後、灌水チューブに付着したハダニ類をほうき等で除去するとともに、残さおよび株の残茎を除去した後、バーナー焼却を徹底する。				

作物名	病虫害名	1月の予想発生量 <sup>注1)</sup>		病虫害防除のてびきの記載頁 <sup>注2)</sup>	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
ナス	すすかび病	並	並	232～233	 すすかび病
	灰色かび病	並	並	231～232	
	菌核病	並	並	234	
	アザミウマ類	並	多	238～239	
	コナジラミ類	並	並	239～240	
<b>特記事項</b> <b>1. すすかび病</b> 本病の発生を認めた場合、ダコニール 1000 (TPN水和剤) を散布し、約1週間後にベルコートフロアブル (イミノクタジナルベシル酸塩水和剤) を散布する。これを約1ヶ月間隔で実施することで本病の発生を低く抑える。 <b>2. アザミウマ類</b> 一部の圃場で発生が多く見られる。施設内で越冬した虫が春先以降の増殖源となるため、冬季から防除を徹底し、発生密度を低く抑える。					
タマネギ	べと病	早生ほ場	やや多	並	278～280
		中晩生	並		
<b>特記事項</b> <b>1. べと病</b> 本年は、天候不順により定植が遅れたほ場や未定植のほ場が多い。本病の発生を抑えるため、以下の対策を確実に実施する。 1) 苗への感染を防ぐため、苗床での薬剤防除を継続して行う。 2) 定植したほ場では移植後に薬剤防除を徹底する。 3) 極早生、早生ほ場では、各ほ場で越年罹病株の発生状況を確認し、発生が認められた場合には速やかに抜き取りを行う。					

作物名	病虫害名	1月の予想発生量 <sup>注1)</sup>		病虫害防除のてびきの記載頁 <sup>注2)</sup>	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
キク	白さび病	やや少	並	380～381	 白さび病
	アザミウマ類	やや多	多	384～385	
	アブラムシ類	並	並	386～387	
	ハダニ類	並	並	385～386	
	ハモグリバエ類	並	並	388～389	
<b>特記事項</b> <b>1. 白さび病</b> 発病後の防除は難しいため、薬剤の定期的な散布と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせで防除する。 <b>2. アザミウマ類</b> 施設内および施設周辺の雑草は本虫の発生源となるため除去を徹底する。また、次作での発生を抑えるため、定植前に粒剤を施用する。					

注1) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注2) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

注3) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

## II. 予報の内容・根拠等について

### 予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。  
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

### 予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

### 防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

### 写真

- 1 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。  
 4 ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

### 1 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 1 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（平成 28 年 12 月 21 日）を基に、「気温：平年並」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3 ヶ月予報における 1 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	30	30 (5.4℃)	40	並
降水量	30	40 (56.7 mm)	30	並

### Ⅲ. 1月の予報

## イチゴ（本圃）

（巡回調査12圃場、  
調査日：12月16日～20日）



巡回調査圃場の様子

### 1. ハダニ類

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや少ない）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ①巡回調査（図1参照）  
発生株率：6.3%（平年8.4%、前年12.7%）  
平年比：並（±） 前年比：やや少（-～±）
    - ②病害虫防除員による調査（6圃場）  
4圃場で発生確認、発生株率は12.7%（±）
  - (2) 防除上注意すべき事項
    - (1) 圃場によって薬剤の感受性が異なるため、防除効果を確認しながら、防除薬剤を選定する。
    - (2) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的に防除を行う。
    - (3) その他は特記事項を参照。

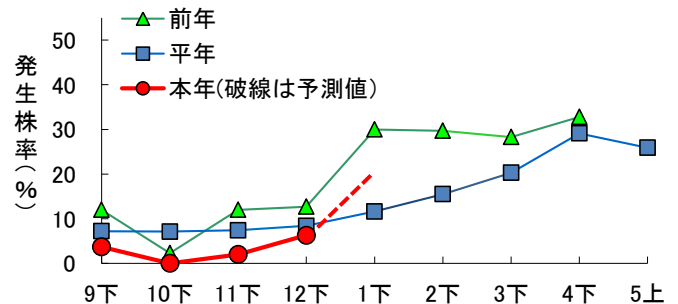


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

### 2. うどんこ病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ①巡回調査（図1参照）  
発生株率：3.0%（平年11.6%、前年6.0%）  
平年比：少（-） 前年比：並（±）
    - ②病害虫防除員による調査（6圃場）  
1圃場で発生確認、発生株率は1.3%（-）
  - (2) 1月の気象予報  
並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 葉および果実での発生状況に合わせ、約2週間～1ヶ月間隔の薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせで防除する。

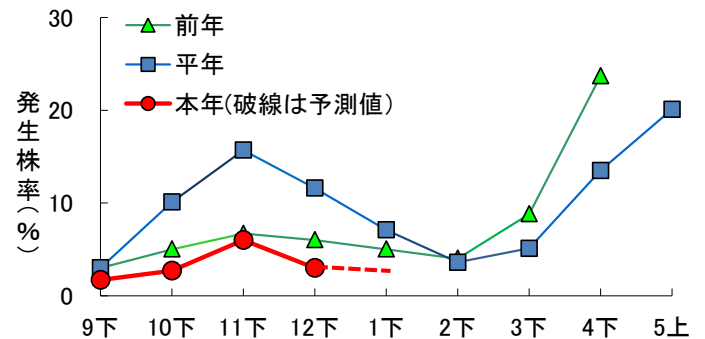


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

## キュウリ

巡回調査（7圃場うち1圃場は抑制栽培を継続中）  
調査日：12月14日～20日



巡回調査圃場の様子

### 1. アザミウマ類（本文掲載）

- 1) 予報の内容  
発生量：平年並（前年よりやや多い）



## 2) 予報の根拠

### (1) 発生の現況

#### ①巡回調査 (図1 参照)

発生株率: 3.6% (平年4.3%、前年2.1%)

平年比: 並(±) 前年比: やや多(±~+)

### 3) 防除上注意すべき事項

#### (1) 特記事項を参照。

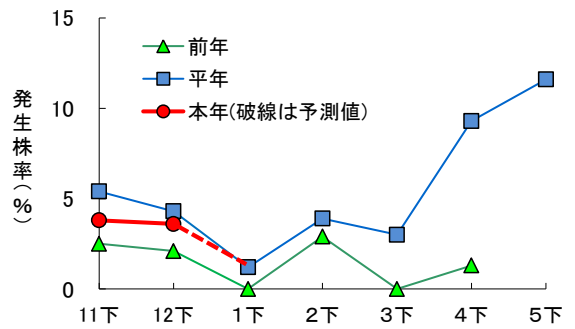


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

# トマト

(巡回調査 12 圃場、  
調査日: 12月16日~20日)

## 1. 灰色かび病

### 1) 予報の内容

発生量: 平年より多い (前年より多い)

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ①巡回調査 (図1 参照)

発生株率: 1.9% (平年0.3%、前年0.6%)

平年比: 多(+) 前年比: 多(+)

##### ②病害虫防除員調査 (6 圃場)

3圃場で発生確認、発生株率は4.2% (+)

#### (2) 1月の気象予報

並発生の条件(±)

### 3) 防除上注意すべき事項

#### (1) 特記事項を参照。



巡回調査圃場の様子

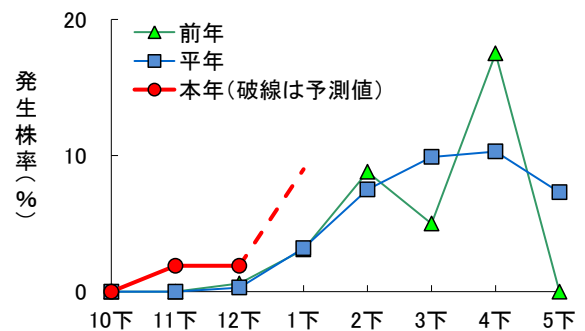


図1 トマト灰色かび病の発生推移

## 2. コナジラミ類

### 1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや多い)

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ①巡回調査 (図1 参照)

発生株率: 6.3% (平年3.5%、前年8.8%)

平年比: やや多(±~+) 前年比: やや少(一~±)

##### ②病害虫防除員調査 (6 圃場)

2圃場で発生確認、発生株率は2.5%(±)

### 3) 防除上注意すべき事項

#### (1) 特記事項を参照。

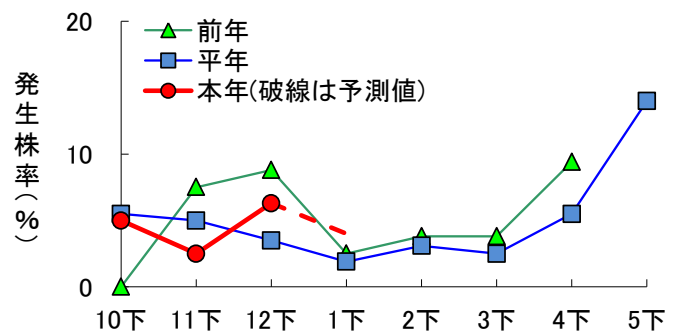


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

# ナス (促成)

巡回調査 (7 圃場)  
調査日: 12月14日~16日

## 1. すすかび病

### 1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況



巡回調査圃場の様子 (ナス)

- ①巡回調査（図1参照）  
発生株率 2.9%（平年 3.3%、前年 7.5%）  
平年比：並（±） 前年比：やや少（-〜±）
- ②病害虫防除員調査（6圃場）  
1圃場で発生確認、発生株率は 3.3%（±）
- (2) 1月の気象予報  
並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (2) その他については特記事項参照。

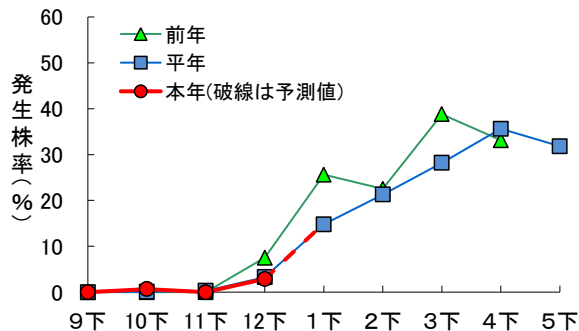


図1 ナスすずかび病の発生推移

## 2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率 25.0%（平年 18.9%、前年 3.8%）  
平年比：並（±） 前年比：多（+）

②病害虫防除員調査（6圃場）

3圃場で発生確認、発生株率：8.3%（-〜±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (3) その他については特記事項参照。

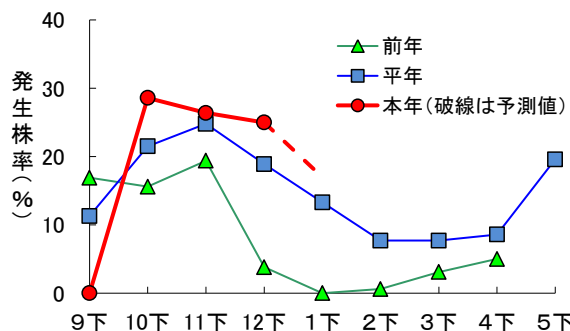


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

## 3. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率 18.6%（平年 24.6%、前年 17.5%）  
平年比：並（±） 前年比：並（±）

②病害虫防除員調査（6圃場）

3圃場で発生確認、発生株率：10.8%（-〜±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

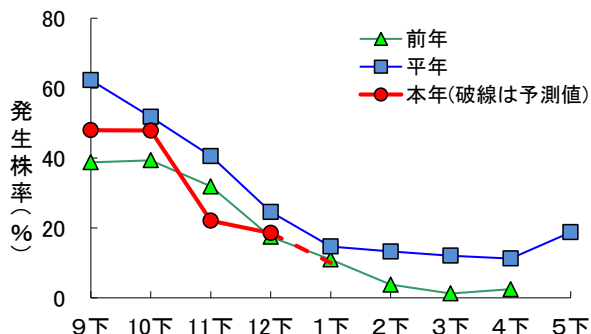


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

タマネギ

巡回調査（16圃場）  
12月16日

## 1. ベと病（早生マルチ）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）



巡回調査の圃場の様子

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1参照)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並 (±) 前年比：並 (±)

(2) 12月の気象

12月1日～25日までのアメダス佐賀観測所での降雨日数は14日と多く、多発生の条件であり、感染が助長されたと考えられる。〈+〉

(3) 1月の気象予報

並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

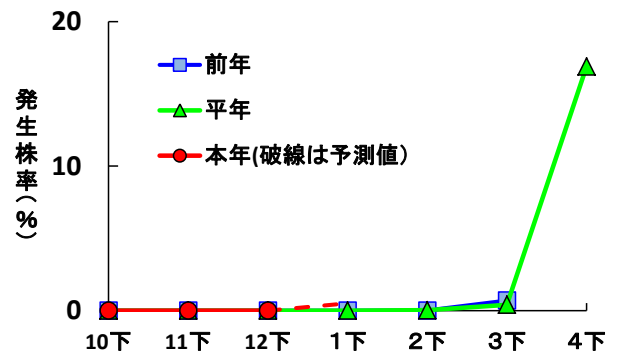


図1 早生マルチタマネギでのべと病の発生推移

## 2. ベと病 (中晩生)

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

(1月に越冬罹病株が発生する可能性は低い、苗床及び本場で感染する可能性が高い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1参照)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並 (±) 前年比：並 (±)

(2) 12月の気象

12月1日～25日までのアメダス佐賀観測所での降雨日数は14日と多く、多発生の条件であり、感染が助長されたと考えられる。〈+〉

(3) 1月の気象予報

並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

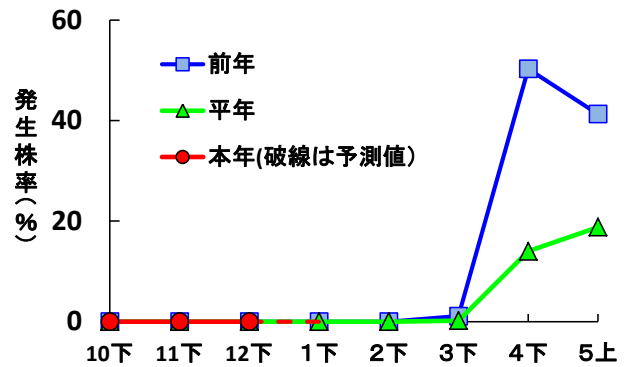


図1 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

# キク

巡回調査 (8 圃場)

調査日：12月14日～16日

## 1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率0% (平年6.5%、前年6.8%)

平年比：やや少 (一～±) 前年比：やや少 (一～±)

(2) 1月の気象予報

並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。

(2) 暖房機による送風や循環扇を活用するなどして、適切な湿度管理に努める。

(3) その他については、特記事項参照。



巡回調査圃場の様子 (キク)

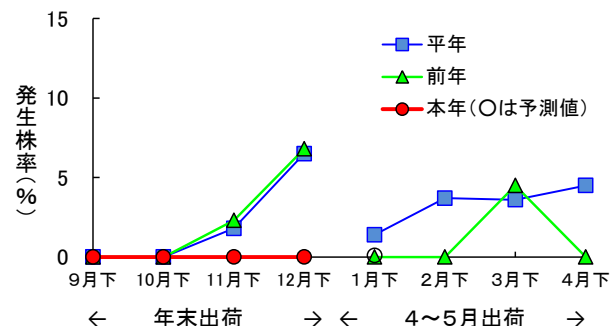


図1 キク白さび病の発生推移

## 2. アザミウム類（クロゲハナアザミウム、 ミナミキイロアザミウム、 ミカンキイロアザミウム）

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ①巡回調査（図1参照）

発生株率 4.3%（平年 2.5%、前年 1.0%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：多（+）

### 3) 防除上注意すべき事項

#### (1) 特記事項を参照。

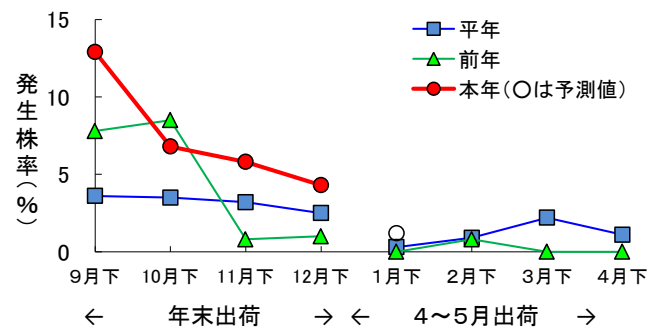


図1 アザミウム類のキクでの発生推移



# 全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に11月24日～12月20日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）

作物名	病害虫名	九州・沖縄・山口		その他の都道府県	
		注意報	警報	注意報	警報
発表なし					

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）

作物名	病害虫名	発表日及び発信元
野菜	メボウキ（バジル）	べと病
		11/28 和歌山県

## 農薬の適正使用を徹底しましょう！

◎農薬を使用する際は、事前にラベルをよく確認しましょう。

農薬の登録内容は変更されることがあります。使い慣れた農薬でも、ラベル等で登録内容を確認して使いましょう。

◎農薬を散布するときには、農薬の飛散に注意しましょう。

使用する農薬が、その周辺で栽培されている農作物で登録（適用）がない場合には、特に注意する必要があります。



◎防除器具は十分洗浄しましょう。

前回使用した農薬をタンクやホース内に残したまま、別の作物に使用すると国が定めた基準値を超過する恐れがあります。



（佐賀県・佐賀県植物防疫協会作成パンフレットから抜粋）

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部  
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088  
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085  
Mail nougyougi jutsu@pref. saga. lg. jp